

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 4 日現在

機関番号：13401

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2016

課題番号：26370406

研究課題名(和文) 北宋における白居易受容の研究

研究課題名(英文) Study on Acceptance of Bai Juyi in the Northern Song Dynasty

研究代表者

澤崎 久和 (SAWAZAKI, Hisakazu)

福井大学・学術研究院教育・人文社会系部門(教員養成)・教授

研究者番号：70145100

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,000,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は白居易に関して、北宋・晁迥の『法蔵碎金録』が重要なテキストであることを解明した。要点を三つ挙げる。(1)本書が多数の白居易の詩文を引用し、高い評価を与えていること。(2)晁迥が白居易の詩に依拠した自身の詩(擬詩)を創作していること。(3)白居易の「以詩為仏事」という文学観は『維摩経』中の言葉に依っており、この語が晁迥に影響を与えたこと。また、白居易に関する一部の章の訳注を作成した。

北宋・陳舜俞の『廬山記』も多くの白居易詩文を収録する。そこで、陳舜俞の『廬山記』諸本を調査し、これに含まれる白居易詩文の意義を確認した。

研究成果の概要(英文)：This study about Bai Juyi made it clear that Chao Jiong's "Fazang suijinlu" in the Northern Song Dynasty is an important text. There are three main points. (1) This book quote a lot of Bai Juyi's poetry and prose, and give high evaluation. (2) Chao Jiong imitated Bai Juyi's poetry and created new poetry of his own. (3) The literary look of Bai Juyi who says "Poetry is practice of Buddhist belief" makes the word in "Vimalakirtinirdesa-sutra" a basis. This Bai Juyi's word had an influence on Chao Jiong. In addition, I translated some chapters related to Bai Juyi in this book, and made annotation of these chapters.

Chen Shunyu's "Lushanji" in the Northern Song records a lot of poetry of Bai Juyi, too. I investigated various books of "Lushanji" and confirmed the significance of the poetry of Bai Juyi included in this book.

研究分野：中国文学

キーワード：白居易 北宋 晁迥 法蔵碎金録 擬詩 以詩為仏事 廬山記

1. 研究開始当初の背景

筆者はこれまで継続して白居易及びその詩文に関する研究に取り組み、幸いに平成24年度科学研究費補助金、研究成果公開促進費を受けて、その成果を『白居易詩研究』(研文出版、2013年2月)として刊行することができた。『白居易詩研究』においては主として白居易の詩文そのものに関する検討を行い、これを第一部「白居易詩表現論考」と題して一括したが、その第二部においては「宋詩自注所引の白居易関係資料」と題して、現存する宋詩の自注に含まれる白居易詩文の収載状況について網羅的に調査検討し、これによって宋代における白居易受容に関する研究の一助とした。しかしながら、宋詩自注以外の文献に関する調査にはなお及ぶことができなかつた。一方、従来中国古典文学研究においては、北宋前期は白居易の影響が強い時代とされるにも関わらず、その影響や受容の実際を具体的に解明した先行研究は稀であった。

以上のような研究上の背景の中で、後世における白居易の影響を検討する一環として、まずは時代の上でもっとも白居易に近く、またその影響の大きかった北宋に焦点を当て、この時代における白居易受容に関わる主要な著作を見出し、これを通して白居易及びその詩文の受容の実際について具体的に解明すべく、本課題を設定した。

2. 研究の目的

北宋のうち特に前期における白居易及びその詩文の受容の実態を文献に即して解明し、この時期において白居易が与えた影響の重要性について具体的に明らかにすることを目的とする。

3. 研究の方法

本課題において主たる検討対象としたのは北宋・晁迥(954~1001)の著書『法蔵碎金録』十巻である。『法蔵碎金録』には現在知られる限り、明の嘉靖二十五年、晁氏宝文堂刊本と清の四庫全書所収本とがある。そこでまず本書のテキスト調査を行ったうえで全巻の本文を整理し、巻ごとに通し番号を与え、ワードによる本文データベースを作成した。そのさい、本文にはすべて句読を施した。その後、本書に含まれる白居易詩文を取り出してこれを読解し、いくつかの観点から分析を加え、『法蔵碎金録』において晁迥がどのように白居易の詩文を受容しているかについて検討した。検討に当たっては、当該の白居易詩文の『白氏文集』諸本における収録状況と本文の文字の異同等にも可能な限り注意を払った。

次いで、白居易の詩文を引用する重要な箇条について、詳細な訳注の作成を試みた。訳注の作成においては、白居易と晁迥が共に大きな関心を寄せた仏教に関わる文献の調査を重視することとし、そのため、SAT大正

新脩大蔵経テキストデータベース(大蔵経テキストデータベース研究会)を利用して、その語彙上、表現上の影響関係について探索した。

晁迥にやや遅れるがほぼ同時代人と言える陳舜俞(?~1075)の著書『廬山記』五巻もまた白居易の詩文をまとめたかたちで伝え、かつ白居易の事跡に関する幾つかの記載を含む文献である。そこで、本書についてはその最善本と認められる内閣文庫蔵宋刊本『廬山記』を中心に据え、同時にこれまで内外において刊行された諸テキストについて調査し、それ等を元にこれに含まれる白居易詩文及び関係箇条をすべて取り出して本文を整理し、その意義について検討するという方法をとった。

4. 研究成果

北宋における白居易受容について、晁迥著『法蔵碎金録』十巻及び陳舜俞著『廬山記』五巻を元とした研究成果として以下の諸点を挙げるができる。

『法蔵碎金録』十巻中より、白居易関係の記載が含まれる56章を取り出し、『白氏文集』に当たって逐一出典調査を行った。その結果、晁迥は白居易の詩文を『白氏文集』のどの巻からも満遍なく引用し、批評を加えていることが確認された。この時代において、白居易の詩文をこれほど多数引用し、逐一批評を加えている文献は他に例を見ない。『法蔵碎金録』は白居易及びその詩文に対するまとまった分量を有する最初の批評であり、北宋において白居易の詩文が好んで受容されたことをよく示すものと言える。

『法蔵碎金録』には著者である晁迥自身による白居易の詩に対する「擬詩」が20首余り存在する。本書には白居易以外の人物の作に対する「擬詩」も含まれるのであるが、白居易の作に対するそれがもっとも多い。そもそも「擬詩」とは、先行する詩において使用される語句とそこに込められた感情や思想とを撰取しながら、新たな語彙と感情・思想を盛り込んだ詩のことである。しかも、晁迥は自ら創作した擬詩において、元とした白居易の詩の表現内容ないし思想に従属するのではなく、深く賛同しつつも常にこれを乗り越えて独自の観点による表現を生み出そうとする意欲を見せる。その表現態度は極めて積極的である。白居易の詩についてこのような新たな擬詩を創作したのは晁迥が最初であり、北宋のこの時期における白居易の詩文が単なる愛好の対象とされるのに止まることなく、これを読む者自身の創作を促す作用を果たしていたことが知られる貴重な例と言える。

白居易が道宗上人について詠じた詩「題道宗上人十韻并序」に「以詩為仏事(詩を以て仏事を為す)」という語がある。大蔵経による調査の結果、この語は『維摩経』『菩薩行品第十一』中の「有以音声・語言・文字而

作仏事（音声・語言・文字を以て仏事を作す有り）」という語に基づくことが判明した。同時にこの語は、晩年に仏教信仰を深めることとなる白居易自身の文学観をも表す重要な語と認められる。一方、晁迥の『法蔵碎金録』には「以文章為仏事（文章を以て仏事を為す）」という語が繰り返し登場する。『維摩経』は『法蔵碎金録』においても好んで引用される仏教經典であり、晁迥は白居易の文学観を『維摩経』を通じて受容していることが確認できる。

なお、白居易の「以詩為仏事」という語は平安時代の大江匡衡（952～1012）による天台を詠ずる詩の序にも白居易の表現を襲うかたちで見えており、日本の平安漢詩文に対しても影響を与えたことが確認できる。また、宋代においては、晁迥以降にその対象を詩文のみならず音楽や書道などの芸術にまで広げて同様の考え方を表明する例が出現する。たとえば、北宋の宋祁・惠洪・王安石等の詩文中にその例を見出すことができる。ここに、仏教という共通の基盤をもとに、白居易の文学観が中国・日本を問わず、後代の文学・芸術においても継承されている様相を看取することができる。

『法蔵碎金録』の白居易関係詩文を含む章について、詳細な訳注を作成した。訳注は、原文・訓読・口語訳・語釈・参考から成る。従来、本書の訳注は中国にも日本にも存在しなかった。今回筆者が公刊した章はなおその一部にとどまるが、この範囲においても晁迥が白居易の詩文について儒仏道三教にわたる多数の書物を引用し咀嚼して自身の文章や擬詩を創作していることが知られた。これによって、晁迥が白居易の人物とその詩文とをどのように理解し批評しているのか、その実際が知られる。たとえば、「曠達」、「冥心無不可」、「心無一事時」、「遊得且須遊」、「幻世春來夢」、「鬪閑僧尚閑」、「以壇經為仏心」等の詩句が批評の対象として取り上げられている。晁迥の批評には、特に仏教や道教と関わって、従来の白居易注釈には見られない観点が存在する。このことは、本訳注の作成を通して得られた成果の一つと言えよう。また、先行研究においては、仏教文献に関して謝思煒氏の『白居易詩集校注』及び『白居易文集校注』（共に中華書局）に優れた成果が見られるものの、これにも指摘されることのない関連文献が見いだされており、白居易詩文と仏教については今後さらなる調査が必要であることが知られた。

『法蔵碎金録』には、現在の『白氏文集』七十一巻にも、先行研究によるその補遺にも含まれない語句がわずかながら存在する。晁迥が手にしていた白居易の詩文集にはこれが含まれていたものと判断される。その一例が「閑樂公」という「自稱」であり、それは晩年の白居易が洛陽において記したものと考えられる。本書は白居易の佚詩・逸文の発掘という点においても、これまで活用される

ことのなかった貴重なテキストであると見える。

『法蔵碎金録』以外の晁迥の著作である『昭徳新編』・『道院集要』及び『全宋詩』・『全宋文』（『全宋文』については本課題との関連が深い文章に限る）所収の作品本文もデータベース化した。その結果、『昭徳新編』・『道院集要』にもまた若干の白居易詩文が引用されること、及び『法蔵碎金録』に見られる晁迥の諸説が両書にも繰り返し登場することが確認された。その具体例は下記の雑誌掲載論文中に記載した。

北宋・陳舜俞『廬山記』については、内閣文庫（国立公文書館内）所蔵宋刊本を始めとして、伝存する諸本をおおむね調査した。このうち、本書に含まれる白居易詩文及び白居易に関わる記述についてはすべての本文を取り出して校記を作成し、併せて主として元禄本『廬山記』に依拠した訓読を提示した。これにより、『廬山記』諸本及び『白氏文集』諸本等の間で対校を行ったところ、陳舜俞が用いた白居易詩文のテキストは今日の宋紹興本『白氏文集』に最も近いと判断される等の結果を得た。ただし、『廬山記』についてはなお関係文献の基礎的整理に止まり、今後なお検討すべき課題を存するという状況である。

なお、下記の〔雑誌論文〕欄に記した論文3篇と、上記のうちの内容を記した「陳舜俞『廬山記』所収白居易詩文」と題する1篇とを合わせ、さらにこの4篇の全体を統括した「前言」を加えた冊子を、『北宋における白居易受容の研究』（2017年3月）と題して作成した。本課題の成果の内、活字化したものはほぼこの冊子に含まれる。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 3件）

(1)「晁迥『法蔵碎金録』所収白居易関係資料訳注稿（一）」澤崎 久和（単著）

『白居易研究年報（特集 書蹟と絵畫）』第17号、251-279pp、2016年12月、白居易研究会編、勉誠出版

(2)「白居易「以詩為佛事」と『維摩経』宋代への継承を視野に入れて」澤崎 久和（単著）

『白居易研究年報（特集 仏教と文学）』第16号、11-35pp、2015年12月、白居易研究会編、勉誠出版

(3)「晁迥『法蔵碎金録』と白居易詩文初探」澤崎 久和（単著）

『白居易研究年報（特集 先蹤と継承）』第

15号、78-101pp、2015年3月、白居易研究会編、勉誠出版

〔学会発表〕(計 2件)

(1)「白居易「以詩爲佛事」と北宋・晁迥『法藏碎金録』」澤崎 久和

福井大学言語文化学会、平成 27 年度春季大会、2015年6月13日、会場：福井大学

(2)「『法藏碎金録』所収白居易詩文と晁迥の擬詩一覧」澤崎 久和

東山之會、2014年12月例会、会場：京都女子大学

〔図書〕(計 0件)

〔産業財産権〕該当せず

出願状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

澤崎 久和 (SAWAZAKI, Hisakazu)
福井大学・学術研究院教育・人文社会系部門・教授
研究者番号：70145100

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

()

研究者番号：

(4) 研究協力者

()